

「この街」のために。「あなた」のために。

そうこう®

S O U K O U

社会医療法人 壮幸会

行田総合病院

TEL : 048-552-1111

2018年3月号(月10) 発行：社会医療法人 壮幸会 行田総合病院



新春対談：がん診療の未来を語る

～川原林外科部長 & 芹澤内視鏡センター長 & 福島病理診断科部長～

特集：がん免疫治療のこれから

～消化器外科・福元医師～

3月

2018 / vol.037

福島 本日は、「がん診療の未来」と題して川原林先生と芹澤先生にお話しを伺います。初めに、2017年を振り返るとどんな年でしたか？

川原林 外科は、鎗田医師、福元医師と優秀な外科医師2名が加わり、常勤医師が6名体制となりました。彼らの活躍もあり、手術件数は500例を超え、臨床だけではなく、研究や教育においても、がん診療に貢献できるような体制が整いました。

芹澤 健診も含め内視鏡件数は4000件を超えました。食道、胃、大腸の腫瘍性病変に対するESD（粘膜下層剥離術）は、1200件まで増えました。行田市の近隣の市町村からご紹介いただく機会も多くなっており、当院が消化器医療に力を入れていることが年々認知されていることを実感します。後半はドラマ『陸王』にハマり、毎週楽しみに観ていました（笑）。

福島 現在行われている消化器がん治療について、どのような種類のがんがあるのか、また、どのような治療があるのかを具体的に伺いたいです。

芹澤 食道がん、胃がん、大腸がんなどがあり、早期発見された場合には内視鏡での治療も可能です。

川原林 胃がん、大腸がん、肝臓がん、膵臓がん、胆道がんの外科的治療を行っています。外科的切除と化学療法や放射線治療を加えた集学的治療を要する事もあります。化学療法については院内の外來化学療法室で実施しています。放射線治療については協力施設で実施しています。

福島 次にお二人の専門性からみた消化器がん治療についてお聞かせください。

芹澤 内視鏡治療は、早期がんが対象となります。内視鏡を使って病変を切除する方法です。外科手術に比べて切除部位が小さく、出血や痛みも少ないため負担が少ないことが大きなメリットです。切除した部分は取り出し、組織を調べ、場合によっては追加切除を行いがんの病巣を完全に切除します。福島先生には、迅速にかつ正確にご診断いただき、いつも感謝しています。

福島 内視鏡治療では根治ができない方の治療を行っています。内視鏡的治療を行ったものの、リン

「新春対談」

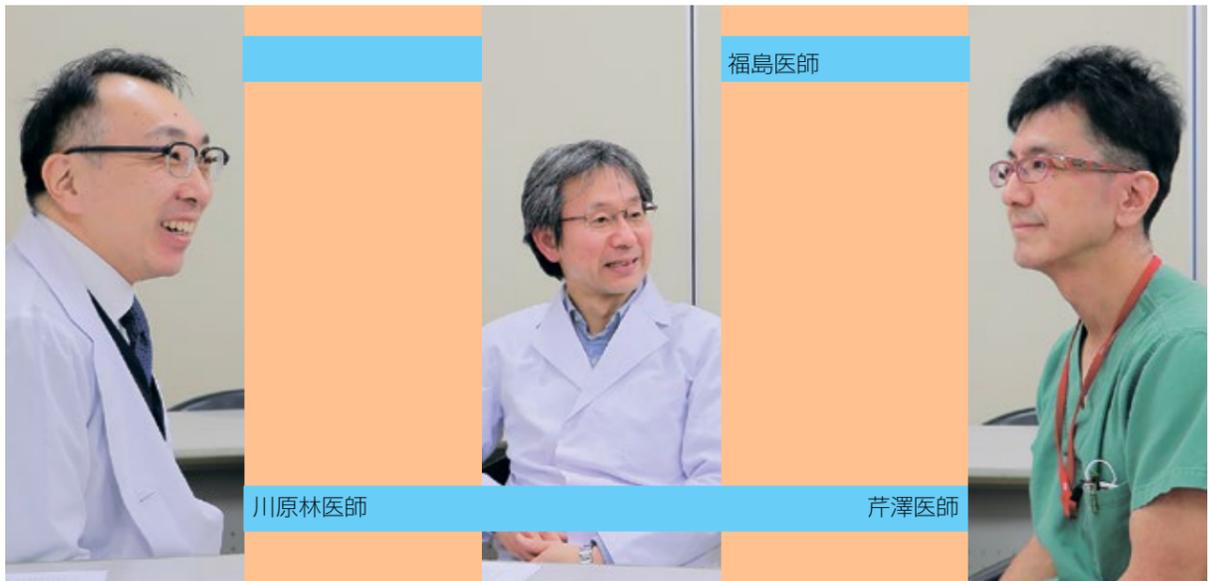
がん診療の未来を語る。

外科部長 川原林伸昭
内視鏡センター長 芹澤 昌史
病理診断科部長 福島 純一

消化器科は、

内科と外科が協力してがんの根治を目指す。病理診断医師による迅速な病理診断。

放射線医師による丁寧な画像診断など、様々な角度からのアプローチを実現している。埼玉県がん診療指定病院である当院が目指すがん治療の未来について、また当院でがん治療を受けるメリットについて病理診断科部長に進行を依頼し、消化器内科と消化器外科医師による対談を行った。



福島 それでは、当院でがん検査・治療を受けるメリットを具体的に伺いたいです。

芹澤 当院には最新の内視鏡が揃っているので、検査でより小さながんを発見できる可能性があります。そして発見したがんの広がりや正確に把握し、深さの推測ができます。内視鏡治療ができる可能性があると判断されれば、質の高い精密な内視鏡技術でがんを丁寧に切除します。そのあとは厳密な病理診断がなされ、必要であれば迅速に外科と連携し追加の治療が必要かどうか検討をします。治療そのものは内視鏡室で行うので、患者さまは普通の検査を受けているのとあまり変わらない感覚で受けていただけますが、治療については常に外科医師、病理診断医と連携しバックアップを受ける体制ができています。

川原林 羅列すると、①当院には、小さながんを見つけることができる技術を有する内視鏡医師と機材が整備されている、②早期がんは内視鏡的治療のスペシャリストが治療を行う、③隅から隅まで読影してくれる放射線医がいる、④優秀な麻酔科医がいる、⑤経験豊富な病理診断医がいる、⑥外科に関しては、「身を粉にして、患者さまを診療する」という気概を持った外科医・看護師が集まっているということです。

福島 皆さん熱い思いで業務に励んでいますよね！最後に地域の皆様へのメッセージをお願いします。

芹澤 今後も地域の先生方に発見していただいた病変を精査して治療する内視鏡センターとして機能していきたいです。どんな地域で検査していただき、当院は治療数を伸ばしていくことを目標とします。治療を受けた方には、『陸王』を履いた陸上選手と同じ満足感、納得を覚えていただけたらと思います。

川原林 がんは「あきらめる病気」ではありません。2人に1人は、がん体現者になります。「悩む前に病院へ」が大切です。

皆様「がんを克服できるよ」あるいは「がんとうまく共生できるよ」スタッフ一同、全力でサポートしていきます。今後ともがん診療指定病院として地域のがん診療に貢献していく所存です。

2018年、免疫チェックポイント阻害薬導入に向けて。

消化器外科

がん免疫治療のこれから

行田総合病院 消化器外科医師

福元 剛

がん化学療法的位置付け

代表的ながん治療には、外科（手術）療法、放射線療法、化学療法が3つがあります。外科療法と放射線療法は局所療法と呼ばれ、限られた部位のがん細胞を除去・死滅させるのに有効な治療法です。一方、化学療法は抗がん剤が血流にのって全身を巡りがん細胞を攻撃する治療法なので全身療法と呼ばれています。広く散らばってしまったがん細胞に対して全身をくまなく治療することのできる化学療法は大変適した治療法と考えられています。

がん治療の最大の目的は患者さまの生命を保つことです。当院で行う化学療法は目的別に大きく以下の3種類に分類することができます。

- ①術前補助化学療法：…明らかな転移がある場合やがん細胞を縮小させ手術範囲を小さくする目的で手術の前に行う薬物療法です。
- ②術後補助化学療法：…手術で取りきれなかったがん細胞や転移の可能性がある場合に将来的な再発を予防する目的で手術の後に行う薬物療法です。
- ③再発・進行治療：…再発や転移または手術が行えないがんに対して行う薬物療法です。延命化学療法とも呼ばれます。がん細胞の増殖を抑えて病気の進行を遅らせること、がん細胞を縮小させて痛みなどの症状を取り去ることを目的として行われます。

ニボルマブとは？

免疫チェックポイント阻害剤であるニボルマブが2017年10月より一部の進行再発胃がんに対して適応となり使用可能となりました。この薬は、抗悪性腫瘍剤アップを図りました。患者さまが安心してニボルマブをお使いいただけるよう全力をあげて取り組んでおります。

今後のがん免疫療法

しかし新規薬剤であるニボルマブにも困った副作用がある事が知られています。ニボルマブがT細胞を活性化させる作用により、過度の免疫反応と考えられる副作用があらわれることがあります。また、この薬は使用を終了した後も副作用が現れることがあります。こういった副作用を免疫関連副作用と呼びます。具体的には間質性肺炎・重症筋無力症・1型糖尿病・甲状腺機能障害・脳炎・静脈血栓症・下垂体機能不全などに多岐にわたり、全身に起こり得ます。これらの免疫関連副作用をコントロールし治療を行うためには、病院全体としてそれぞれの分野のエキスパートである医師の力が必要になります。

当院導入に向けての取り組み

当院では新規薬剤であるニボルマブを安全かつ適正に使用するために様々な取り組みを行なっております。

ニボルマブの使用を開始するにあたり、まず導入委員会を設けました。委員には血液内科や循環器内科、神経内科、糖尿病内科、内分泌内科などの専門医の参加を得ており、前述の免疫関連副作用が起きてしまった時にもすぐに相談できる体制を整えております。また私自身も埼玉県立がんセンターに研修に赴き、すでに使用経験の豊富な呼吸器内科でニボルマブの適正使用や免疫関連副作用の対応について学んで参りました。さらにニボルマブの使用経験や、免疫関連副作用に対する診療経験の豊富な医師を当院へ招き院内講習会を行い（↓P7）、病院全体のレベル

近年、薬物治療の進歩はめざましく、今後も新たな免疫チェックポイント阻害剤も使用可能になるかもしれません。また、現在は『がん化学療法後に増悪した治療切除不能な進行・再発の胃がん』、つまり2種類以上の抗がん剤治療をすでに使用して、効かなくなってしまう胃がんの患者さまに対して、ニボルマブ単独でしか使用できませんが、今後はもっと早い段階での使用や既存の抗がん剤との併用療法が可能になるかもしれません。当院ではこういった新しい治療を適正かつ安全に行うために、がん治療の知識や基本技術に習熟した『がん治療認定医』や、抗がん剤治療のエキスパートである『がん薬物療法専門医』の育成にも力を注いでおります。

『がん薬物療法専門医』とは質の高いがん薬物療法を実現するために、幅広い臓器のがん薬物療法の知識と技術を持った専門医です。それぞれの専門医やメディカルスタッフと連携しながらがん治療を行います。

日本のがん薬物療法は胃がんに対しては消化器の医師が対応し、肺がんに対しては呼吸器科の医師が対応するといった風に、臓器・領域別に行われてきました。しかし、がん薬物療法の考え方はすべてのがんで共通です。抗がん剤は、がん種を超えて有効性を示すことが多く、その副作用管理も総合的な全身管理能力を必要とします。そのため、がん薬物療法を安全かつ有効に行うためには臓器横断的視野が必須とされています。今後はそうした『がん治療認定医』や『がん薬物療法専門医』が中心となって抗がん剤治



外来化学療法室のご案内

これまでがん化学療法（抗がん剤によるがん治療）は入院して治療を行うことが一般的でしたが、新規薬剤の開発や副作用の軽減などの医療の進歩によって、外来でも安全にがん治療を受けることができるようになりました。患者さまは自宅を生活を送り、ご家族の援助を受けながら、がん治療を受けることが可能になっています。

当院でも外来化学療法室を開設し、現在では様々な疾患の患者さまが当施設を利用して、外来通院にてがん化学療法を受けています。消化器、泌尿器の疾患で当院で手術を行った患者さまを中心に薬物療法を行っています。

行田総合病院の外来化学療法室には、専属の医師・看護師・薬剤師が勤務し、多くの診療科からの治療依頼を受け、様々ながん化学療法を行っています。がんセンターを始めとした多くのがん治療専門医、看護師、社会福祉士と連携し、患者さまに適切で安全ながん治療の提供に努めています。

外来化学療法室には、電動ベッド、電動リクライニングチェアが整備され、テレビやDVDプレーヤーが完備されています。治療中の患者さまの苦痛を少しでも和らげるために充実した施設で治療を行っています。

がん化学療法で最高の治療成果を上げるためには正確な抗がん剤の調製が不可欠です。外来化学療法室には、薬剤師が常駐し、高い技術と最新の知識をもって正確な抗がん剤調製を行っています。外来化学療法室に所属する薬剤師は、医師が処方した薬を調剤するだけでなく、医師や看護師と協力しながら、患者さまに正しい薬が正確に投与されるかを確認する作業を行い、患者さまが安心して治療が受けられるように最善の努力をしています。

NEWS & TOPICS

2017.12-2018.2

県北地区肝疾患研修会 キングアンバサダーホテル熊谷



2018年2月6日(火)

当院消化器内科・橋本医師が基調講演の座長を務めました。

基調講演では「当院における肝炎コーディネーターの取り組みについて」と題し、埼玉県肝炎コーディネーターである独協医科大学埼玉医療センター看護部副主任・松井先生、同臨床検査部主任・瀧澤先生による講演が。その後の特別講演では、熊谷総合病院内科診療部長・斎藤医師が座長を務め、埼玉医科大学消化器内科・肝臓内科教授・持田医師による「慢性肝炎、肝硬変、肝癌の診療～医療費助成制度の実態と肝炎コーディネーターの重要性～」が行われました。

Xmas 院内コンサート 新南棟 1F ロビー



2017年12月20日(水)

多数の患者さま・ご家族が参加
行田市市民吹奏楽団から7名のプレイヤーを招いて2回目となる開催。全11曲を演奏していただきました。コンサートの様子は当院のホームページでお楽しみいただけます。

感染暴露防止対策勉強会 当院新南棟 4階 会議室



2017年12月18日(月)

飛び散った嘔吐物の処理方法。

院内感染対策委員会主催の勉強会が行われ、多数の医療従事者が参加。大量にウイルスが含まれた嘔吐物を処理時に暴露しない、伝搬させないよう適切な処理の仕方を再確認。外来看護師と消化器病棟の看護師が実技を行いました。

行田・熊谷地区がん免疫セミナー 当院新南棟 4階 会議室



川嶋理事長



埼玉県立がんセンター
消化器内科科長・原医師



外科部長・川原林医師



消化器外科・福元医師
(P4に関連記事あり)

2017年12月12日(火)

～胃がん治療におけるニボルマブの有用性とirAEマネジメント～

総合司会を外科部長・川原林医師が務め、特別講演として埼玉県立がんセンター消化器内科科長・原医師による『胃がん治療におけるニボルマブの有用性とirAEマネジメント』が行われました。熊谷地区の消化器外科医師や薬剤師など10名以上が参加。当院の医療従事者も多数参加しました。「地域のがん治療により貢献できるための有意義なセミナーでした」と川嶋理事長による挨拶で締めくくられました。

COLUMN

ドクターやナース、コメディカルの日常、大げさにいえば人生観まで。
好評につき、毎号連載中！

実は世界一

こんにちは。まもなく5年目となります内科の大坂です。ここでお目にかかるのは初めてですが、比較的専門である『お酒』について、若干の蘊蓄を交えてお話してみたいと思います。

種々あるお酒の中で、今回は日本酒について、知ってるようで意外と知らない「お米がどのように日本酒に変わっていくのか？」のプロセスを説明していきます。

一般的にお酒のアルコールは、甘いジュースの糖分を酵母という微生物が分解する過程で生まれます。お米に糖分？ 甘くはありませんね。では、どのようにお米から糖分が生まれるのでしょうか？ ここで活躍するのが麹菌というカビの仲間です。学名をアスペルギルスオリゼーといいます。「アスペルギルス!? あの肺炎の原因の...!」そうひらめいた貴方は医療関係者でしょうか？ 心配御無用、アスペルギルスオリゼーは、人に有害となる毒を作り出す遺伝子を持たない、いわばできそこないのアスペルギルスだったのです。しかし、我々人間に有益であったのは、でんぷんを糖に変えるアミラーゼという酵素や、たんぱく質をアミノ酸に分解するプロテアーゼという酵素を持っていた点でした。先人はそれらを経験的に知り、利用して多くの発酵文化を築き上げてきたのです。

ちなみに味噌や醤油の旨味は、麹菌が大豆たんぱく質をアミノ酸に分解することで作り出されます。

さて、本題に戻ります。酒造りは麹菌を増やすことから始まります。まず蒸して柔らかくなったお米に種菌をふりかけ（カビを増殖させて）米麴を作ります。この米麴に蒸した米と水を加え、酵母を投入します。これを酒母といい、発酵のスターターとなります（因みに、ここで酵母を入れずアルコール発酵させなければお年寄り・子供にも安心な栄養満点の甘酒になります）。ここで酵母は、麹菌がでんぷんを分解して生じた糖分をエサにしてどんどん増え、この時にアルコールと二酸化炭素が発生します。この酒母をさらに多量の蒸し米と水を混ぜたものに投入し、発酵を進めていきます。さらにこの液体をより多量の蒸米を水を混ぜたものに投入（三段仕込みといいます）、発酵が進むと原酒のもろみができあがりです。

こうして発酵だけでアルコール20度前後のお酒が生まれる訳ですが、実は世界広しといえどもこのような高アルコールの醸造酒は極めて稀なのです。理論的には最初の糖度が高ければ高いほどアルコール度数も高くなるのですが、一定の糖度以上では酵母は働くことができず発酵は進みません（お酒になりません）。では何故日本酒だけが?? 答えは三段仕込みのプロセスの中にあります。日本酒特有のこの発酵の仕方は、でんぷんの糖化と糖のアルコール発酵が同じタンクの中で並行して進行（専門的には並行複発酵といいます）していく、具体的には酵母が活性を保てる糖度以下でどんどん糖が供給され、酵母がそれをアルコールに変えていくという極めて合理的な営みが行われており、結果、世界一高アルコールのアルコールが生み出される訳です。

日本のバブル期、その表舞台に立つことがなかった日本酒ですが、現在では作り手の努力によって世界中（例えばフランスやアメリカ）のセレブが慎重するような素敵な日本酒が数多く誕生しています。

皆様も一度、新しい日本酒の世界を覗いてみてはいかがでしょうか？ お酒の飲めない方は、調味料としても極めて優秀な日本酒を是非お料理にお試し下さい。今回は、生酏や山麴等につきましては、文字数の関係上割愛せざるを得ませんでした。興味のある方は大坂までお問合せください。

そして皆様、好きだからこそ、健康を害さない程度に上手に嗜んでください。



内科副部長・消化器内科医師
大坂祥一

昨年の忘年会ではジュリーの『ダーリング』を熱唱。余興序盤で会場を一気にヒートアップさせてくださいました。

ADVERTISING

院内・院外からの広告を受付けております。

●市民公開講座開催のお知らせ

第5回 肝臓病教室『C型肝炎 99% ～肝炎ウイルス検査したことありますか?～』



患者さまをはじめ、毎回市民の皆様にご好評をいただいている『肝臓病教室』が第5回目を迎えます。今回も消化器内科・橋本医師とコメディカルが「C型肝炎総論、検査や薬剤の統計、疫学、摂ってはいけない食事、リハビリ実演」など、お役に立つ講座を提供させていただきます。お気軽にご参加ください。

●4月20日(金) 17:00～／新南棟 1F 受付前

▶参加申込・参加費は不要です。ご自由にお立ち寄りください。

〔行田総合病院 地域医療連携室〕

●看護担当課からのお知らせ

看護スタッフ専用の相談窓口「サポートセンター」をどうぞご利用ください。

新西棟4階の「サポートセンター」では、看護担当課のスタッフが幅広い相談に対応しています。終日オープンしているので夜勤明けや終業後など、多くの看護スタッフにご利用いただいております。どうぞお気軽にご利用ください。お待ちしております！

〔2018年版 看護師募集案内が完成！〕

看護部&看護担当課の取材・執筆・編集による2018年版の採用パンフレット『看護師募集案内』が完成。本誌のグラフィックデザインは、女性誌や企業広告、WEBデザイン等で幅広く活躍している『株式会社マキア』。女性デザイナーならではの繊細でかわいらしいパンフレットに仕上がりました。



〔行田総合病院 看護担当課〕



●行田総合病院からのお知らせ

当院も協賛！『行田創生 RPG』が間もなくリリース！

行田市を一つの「世界」に見立てたスマートフォン用ロールプレイングゲームアプリ。ゲームを楽しみながら、史跡・施設・産業など行田ならではの恵まれた地域資源に触れることで、広く市内外に魅力を発信。さらに、実際に行田市に訪れていただくため、GPS機能を活用し、現実の史跡や施設とゲームがリンクするとともに、実際に使用できるクーポン券をゲーム内で配布するなど内容も盛りだくさん。当院も実名で登場し、主人公たちの能力を向上させるイベントが楽しめます。ぜひお楽しみください！※リリース(配信)は、2月23日(金)です。

TEL.048-556-1111 (行田市総合政策部企画政策課企画政策担当)

〔行田総合病院 経営情報課・広報〕